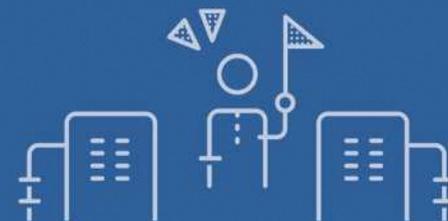


児童・生徒ワークショップ（第2回）からみた
「だれもが集う公園と学校の共存」に向けた方向性について



令和8年3月
有田町 学校教育課

1. ワークショップの開催概要

未来の利用者である子どもたちから「だれもが集う公園と学校の共存」について
多様な意見を直接聞く



実施日時・場所

令和8年1月31日(土)
歴史と文化の森公園
(現地散策・グループワーク)



参加者

合計19名
(町内小学生10名、中学生9名)



テーマと手法

「歴史と文化の森公園」をだれもが集うエリアにしよう」

付箋を用いた自由記述とグループワークによる意見の共有・発表。

2. 各班の検討成果（1班・2班）

第1班の意見



子どもたちが遊ぶ場

遊具をすべて「七福神の森」に移設。
枯れた桜の代わりに新たな植樹。



学校施設と配置

学校は「芝生広場」に建設。



公園の整備と活用

健康づくりのためウォーキングコースは維持。



安全対策

入口付近に防犯カメラ設置。
受動喫煙防止のため喫煙所を集約。

第2班の意見



子どもたちが遊ぶ場

遊具を駐車場近くへ移動（家族の利便性）。
小さい子ども用遊具の増設と危険木の削減。



学校施設と配置

学校と公園を仕切りで分ける。
通学路の入り口を増やし便利にする。



公園の整備と活用

芝生広場を学校用地へ、噴水広場は残す。



安全対策

駐車場近くに自転車スペース確保。
暗い場所への街灯設置。

2. 各班の検討成果（3班・4班）

第3班の意見



子どもたちが遊ぶ場

遊具と七福神像を「花の森」に移設（駐車場近接）。



学校施設と配置

遊具エリアに校舎、七福神エリアに運動場。
既存倉庫（テクノ館）を体育倉庫として活用。



公園の整備と活用

「冒険の森」にバスケットコートを新設。



安全対策

交差点から学校へ、およびコート周辺に階段・坂を設置（アクセス改善）。

第4班の意見



子どもたちが遊ぶ場

木の遊具を復活・活用、または安全対策を実施。



学校施設と配置

入り口や噴水近くに学校設置（遅刻減少・送迎容易）。
炎の博記念堂を行事で活用。



公園の整備と活用

モニュメントや七福神は景観・伝統として残す。



安全対策

学校の入り口近くに昼休み用遊具設置。

3. 全体議論の整理：遊びと健康



子どもたちの遊ぶ場

- 移動を楽しむ工夫

カラフルな通路を遊具へとつなげ、移動自体を楽しむ。

- 設備充実

水飲み場などの設備を追加し、レクリエーション体験を向上させる。



健康づくりの場

- 環境整備

周辺のランニング・ウォーキングコースの環境を整備する。

- 地域の健康拠点

持久走への活用など、学校と地域住民の双方が使える「健康拠点」としての機能を持たせる。

3. 全体議論の整理：歴史と賑わい



公園で残したいもの

- シンボルの保存

噴水、モニュメント、七福神像。

- 伝統と景観

町の景観維持、および伝統的なシンボルとして保存・活用する意向が強い。



だれもが集うには（アイデア）

コンビニエンスストア

昼食準備の手間削減、日常利用のために検討。

キッチンカー

イベント時の柔軟性、学校行事への出張・配達など、賑わいを創出する。

3. 全体議論の整理：施設の工夫と機能



学校の施設の工夫

- 多目的施設案

体育館を2階建て複合施設へ
(1階:球技、2階:テニス)。

- プールの議論

「授業数が少ないため不要(民間利用)」vs「消防用
緊急水源として必要」の議論がなされた。



そのほか(セキュリティ)

- ゾーニング

図書室や食堂は地域開放しつつ、教室エリアは制限する。

- 管理システム

電子カードシステム(ICカード)による入場管理で、
地域アクセスと生徒の安全を両立する。

4. 総括 ～WSの議論に基づく、「歴史と文化の森公園」と「新設校」の共存に向けた方向性(案)～

① 互いの価値を高め合う「共生」可能な配置

単なる敷地の共有ではなく、機能と魅力の相乗効果によりだれもが集うエリアを目指す



魅力の相乗効果

公園の自然環境を「生きた教材」とし、公園がもたらす賑わいを学校の魅力とするなど、Win-Winの関係構築を目指す。



機能の最適分担

学校施設(図書館・体育館)の地域開放や、公園機能(広場・遊具)の学校利用を前提とし、重複投資を避けた効率的整備を目指す。



景観と歴史の継承

芝生広場や噴水広場など、町民に親しまれてきた公園の景観資源の保存・活用を検討する。

「公園の中に学校がある」ことのメリットを最大化する計画を目指す。

4. 総括 ～WSの議論に基づく、「歴史と文化の森公園」と「新設校」の共存に向けた方向性(案)～

② 「だれもが集う」開放性と、「生徒を守る」セキュリティを両立させるゾーニング

「地域に開くこと」と「生徒の安全」のバランスを重視した計画



配置の最適解検討

「芝生広場」や「遊具の移設」について、造成コスト、公園機能の維持、通学利便性を比較考量し、最適化。



セキュリティ・ライン

「開放エリア(図書館・会議室)」と「専有エリア(教室)」を区分し、物理的かつ視覚的な境界を設計する。



動線の完全分離

生徒の通学動線、公園利用者の散策動線、保護者の送迎車両動線を明確に分離し、事故・防犯リスクの排除を徹底する。

今後の設計への要求事項:

- ✔ 「だれもが集う」開放性と、「生徒を守る」堅牢なセキュリティを両立させる高度なゾーニング計画を必須とする。